（表中敬称略）

会議名	リカレント教育プログラム開発部会（令和２年度第２回）		
日　時	令和３年３月１１日（木）１０時～１１時３０分		
場　所	オンライン（Zoom ミーティング）		
出席者			
カテゴリ	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	チーフ	小室　篤史
連携企業 部会長	西日本高速道路株式会社	関西支社　構造担当部長	佐溝　純一
連携企業	西日本高速道路株式会社	技術研修担当課長（茨木技術研修センター長）	福冨　章
連携校 副部会長	長岡工業高等専門学校	准教授	陽田　修
連携校	福井工業高等専門学校	教授	辻野　和彦
連携校	福井工業高等専門学校	嘱託教授	阿部　孝弘
代表校	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田　和也
代表校	舞鶴工業高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	毛利　聡
連携校	香川高等専門学校	助教	長谷川　雄基
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	准教授	宮下　剛
連携校	放送大学学園	課長補佐, 社会連携コーディネーター	東海林 壽朗
連携校	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野　貴元
連携校	長岡工業高等専門学校	助教	白井　一義
連携校	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山　聡
連携校	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川　清剛
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田　知子
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛　園恵
連携校	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江　正樹

議事次第

１．はじめに　　舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授　玉田 和也
２．部会長挨拶　　西日本高速道路株式会社関西支社　構造担当部長　佐溝 純一 様
３．リカレント教育プログラムの検証について（報告）
　・検証対象と検証方法　　……　資料１
　・検証経過と対応状況
　　① 専門特修講座【橋梁長寿命化対策】　　……　資料2-1

② 専門特修講座【構造物の詳細調査】 …… 資料 2-2

③ 専門特修講座【施工技術と施工管理】 …… 資料 2-3

４．リカレント教育プログラムの開発について（審議）

・専門特修講座【建設ＩＣＴ】の開発状況 …… 資料 3

・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の開発方針（案） …… 資料 4

５．リカレント教育プログラム開催計画について（審議）

・2021 年度リカレント教育プログラム開催計画（案） …… 資料 5

６．まとめ

７．その他（今後の予定，事務連絡等）

・令和３年３月１１日（木）13:30～15:00　@オンライン
　　実務家教員育成研修プログラム開発部会（令和２年度第２回）

・令和３年３月１２日（金）10:30～12:00　@対面・オンライン併用
　　人材育成・活用システム設計部会（令和２年度第１回）

・令和３年３月１２日（金）13:30～15:30　@対面・オンライン併用
　　ＲＥＩＭ産学連携コンソーシアム合同会議（令和２年度第３回）

・令和３年３月１８日（木）14:30～17:00　@対面・オンライン併用予定
　　外部評価：社会基盤メンテナンス技術レベル検討委員会（令和２年度第５回）

・令和３年３月２０日（土・祝）10:00～17:00　@オンライン
　　大学改革を担う実務家教員フェア２０２１（第２回）

・令和３年３月２３日（火）13:30～16:30　@舞鶴高専
　　京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会（令和２年度第１回）

・令和３年５月頃予定
　　ＲＥＩＭ産学連携コンソーシアム合同会議及び各部会@対面・オンライン

以上

写真１　佐溝部会長挨拶

写真２　会場風景

写真３　オンライン参加者

リカレント教育プログラム開発部会（第２回）議事録

日時：令和３年３月１１日（木）10:00～11:30
場所：オンライン（Zoom ミーティング）

１．はじめに　　舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授　玉田 和也

２．部会長挨拶　　西日本高速道路株式会社関西支社　構造担当部長　佐溝 純一 様

３．リカレント教育プログラムの検証について（報告）
- ✓ 引き続き実証講座での検証を進めていく方向で良い。
- ✓ 構造物の作り方（施工技術と施工管理）から教えるという観点は重要である。

４．リカレント教育プログラムの開発について（審議）

・専門特修講座【建設ＩＣＴ】の開発状況
- ✓ 学修内容が盛り沢山。受講生ニーズの調査とともに，点検・診断技術者に必要なツールという観点で開発を進めてほしい。
- ✓ 日進月歩の分野のため，随時アップデートされる講座として開発してほしい。

・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の開発方針（案）
- ✓ 本講座に至るまでの学習ボリュームが非常に多く，受講生へのインセンティブも必要と思われる。
- ✓ 資格取得のアピールだけでなく，社会人のリカレント（学び直し）教育の講座であり，受講生の学びの好機を作る講座である点を広報していく必要がある。
- ✓ 診断に活用できるか，という視点で建設ＩＣＴとの関連も考慮して開発を進める。

５．リカレント教育プログラム開催計画について（審議）
- ✓ 新型コロナウイルス感染防止に配慮するとともに，開催に向けた課題解決に取り組むこと。
- ✓ 連携４高専での基礎編（橋梁点検）試行実施にあたり，連絡調整を密にとって進めること。

６．まとめ
- ✓ 合同会議にて，佐溝部会長より部会報告を行う。

７．その他（今後の予定，事務連絡等）

以上